

令和7年度 徳島県立脇町高等学校 学校評価 総括評価表

| 重点目標                                       | 課題                         | 評価指標と活動計画 | 実施状況   | 評価  | 総合評価 | 学校関係者の意見 | 次年度への課題   |
|--|----------------------------|-----------|--|---|------|----------|---|
| 1 学校と家庭が連携を深め、主体的に学習する態度と確かな学力をもった生徒を育成する。 | (1) 指導方法の工夫・改善             | 評価指標      | 1 「授業力向上に、授業公開・参観授業を役立てることができた」教職員の肯定的評価90%以上  | 教員の肯定的評価は86.0%(+1.1)であり、概ね目標を達成できた。   | B    | B        | 家庭学習時間の増加も大切であるが、学習の質を重視したい。そもそも時間が確保できない、やり方が分からないなど原因に応じた対応をしていく必要がある。<br>学校ホームページについて小中学生やその保護者向けにアピールし、通ってみたいと思ってもらえる手立てをお願いしたい。  |
|  |                            |           | 2 「指導方法や内容の精選、観点別学習状況評価の内容や教材の共有などについて、教科内での連携を密に行っている」教職員の肯定的評価90%以上                        | 教員の肯定的評価は90.9%(-1.6)であり、目標を達成できた。   |      |          |   |
|  |                            | 活動計画      | 1 授業研究週間を年2回(各2週間)設けるとともに、協働的問題解決型の授業公開を全教職員が行う。   | 実施、達成できた。   |      |          |   |
|  |                            |           | 2 各教科で教科会や授業担当者打ち合わせを適宜開催し、学習指導方法や評価の工夫や改善について検討する。  | 教科会を定期的に行うことはできなかったが、ちょいカフェ研修等を通して指導法及び評価方法の工夫や改善を行った。  |      |          |   |
|  | (2) 計画性や目的意識を持った学習習慣や態度の育成 | 評価指標      | 1 「週末課題や確認テストに意欲的に取り組んだ」生徒の肯定的評価80%以上<br>「定期考査に向けて計画的に学習に取り組んだ」生徒の肯定的評価75%以上                 | 週末課題に関する肯定的評価80.5%、定期考査に関する肯定的評価71.7%であり、概ね目標を達成できた。  | B    | B        | 授業研究週間やICTの活用、研修を行うなど教職員の授業改善に取り組む意欲は非常に高い。<br>日々の学習の先にある実力テストや校外模試に向けての生徒の主体的で計画的な取組は不十分である。   |
|  |                            |           | 2 「実力テスト・校外模試に向けて自分の目標が設定できている」生徒の肯定的評価75%以上   | 「実力テスト・校外模試に向けて自分の目標が設定できている」生徒の肯定的評価72.8%。進学室前の掲示板に試験予定を提示するとともに、具体的な目標を立てるよう指導を実施してきた。  |      |          |   |
|  |                            | 活動計画      | 1 シラバスや手帳、面談、集会などを効果的に活用し、計画的な学習スタイルを確立させる。  | 手帳を活用した学習スケジュール管理や各教科・学年での学習方法ガイダンスなどを通して、生徒への啓発を行った。また、長期休業以外にも各学年ごとに個別面談を実施し、意識の高揚を図った。   |      |          |   |
|  |                            |           | 2 進学室前の掲示板に試験予定を提示するとともに、具体的な目標を立てるよう指導する。   | 進学室前の掲示板は、毎日チェックし、試験情報を掲示した。試験予定だけでなく、オープンキャンパスや大学で実施しているコンテストや研究内容も掲示した。   |      |          |   |
|  | (3) 家庭学習の充実                | 評価指標      | 1 全生徒の年間平均家庭学習時間2.8時間以上<br>1年生2.7時間以上、2年生2.8時間以上、3年生3.5時間以上                                  | 脇高手帳や集中学習時間の活用も行ったが、第1回から第5回までの学習時間調査の結果は1年生が2.00、2年生が2.25、3年生が3.46であった。全生徒の平均は2.57である。昨年の2.74、2年前の2.65、3年前の2.81に比べて減少している。特に1年生の減少が目立っている。 | C    | C        | 家庭学習時間は、全体目標を達成できていない。昨年度比較では、3年生は0.65時間増加しているが、1年生は0.74時間、2年生は0.4時間減少している。<br>教職員の授業改善等に加え、SSH等での多様な学びの場の提供により、生徒の授業における肯定的評価は非常に高い。   |
|  |                            |           | 2 家庭学習時間調査において、学習時間が1時間未満の生徒の割合を、4%以下にする。  | 3年生は受験に対する意識を持って伸びているが、1年の低下が著しい。家庭学習時間調査において、学習時間が1時間未満の生徒の割合は5.5%であった。  |      |          |   |
|  |                            | 活動計画      | 1 家庭学習時間調査を通して、家庭における学習状況を把握し、指導に活用することで学習習慣を確立させる。  | 3年生の2%に対して1年生は8.8%、2年生は4.8%であった。2年生は第1回から第5回の調査において下がっていったが、1年生は7%から10%に上がっている。   |      |          |   |
|  |                            |           | 2 HR・学年集会等を利用して学習の意義や具体的な学習方法について指導し、授業内容の振り返りの重要性を理解させる。                                    | HR・学年集会等を利用して学習の意義や具体的な学習方法について指導し、授業内容の振り返りの重要性を理解させるといったことは行ってきた。   |      |          |   |
|  | (4) 興味・関心を高める教育            | 評価指標      | 1 「生徒の興味関心を高める教材の研究や授業の工夫・改善を積極的にに行った」教職員の肯定的評価90%以上<br>「興味・関心を持って授業に意欲的に取り組んだ」生徒の肯定的評価80%以上 | 教員の肯定的評価は93.2%(-4.4)であり、目標値を達成できた。また、生徒の肯定的評価は84.6%(-4.7)であり、目標値を達成できた。   | A    | A        | 総会の参加者数の割合は目標を下回った。学年進路保護者会についても1、2学年で目標を下回った。ホームページの更新回数は目標を達成した。情報公開のタイミングや頻度を改善することで肯定的評価も高くなった。   |
|  |                            |           | 2 「SSH事業の各種活動に参加してよかった」生徒の肯定的評価80%以上   | 生徒の評価は81.9%であり、目標値を達成できた。   |      |          |   |
|  |                            | 活動計画      | 1 文献や書物に接する機会を増やし、話題に富んだ授業を行うなど、生徒の興味・関心を高める工夫がなされた、わかりやすい授業を行う。                             | 生成AIやコンピテンシーに関するちょいカフェ研修を実施することで、その活用例を掲示し、それぞれの教員が工夫を重ねた授業実践を行った。  |      |          |   |
|  |                            |           | 2 魅力あるSSH事業を展開し、未知の事柄への興味(知的好奇心)を向上させる。  | 生徒へのアンケート調査では、77.3%の生徒が肯定的な評価をしており、概ね目標を達成できた。  |      |          |   |
|  | (5) 家庭との連携                 | 評価指標      | 1 PTA総会の保護者参加者数の割合35%以上<br>学年進路保護者会の参加者数の割合、各学年75%以上   | 総会の参加者数の割合は30.5%で目標を下回った。学年進路保護者会については3学年は84.3%で目標を大きく上回ったが、1、2学年では60%台にとどまった。  | B    | B        | OPTA総会への参加の呼びかけについては、引き続き継続して行う必要がある。進路保護者会の参加はおおむね良好であり、継続した取組が必要である。<br>ホームページについては行事予定や創立130周年記念ページの作成も含めて充実させることができた。一方で、行事予定の更新が不十分との意見もあったため、適切な時期に更新したり、学期毎の予定表を掲載したりするなどの改善を行っていききたい。 |
|  |                            |           | 2 「ホームページは、学校の活動状況などを理解するのに役立つ」保護者の肯定的評価70%以上  | 「ホームページは、学校の活動状況などを理解するのに役立つ」保護者の肯定的評価77.8%(昨年度78.2%)で目標を上回った。  |      |          |   |
|  |                            | 活動計画      | 1 PTA総会や脇高祭バザー等のPTA活動への積極的な参加を促す。また、ホームページ等を利用した広報活動を充実させる。                                  | 脇高祭バザーの参加者数は今年度も30名を超える参加があった。ホームページでの広報活動についてはほとんどできなかった。  |      |          |   |
|  |                            |           | 2 ホームページの更新を年間200回以上実施する。  | 記事更新はトップページの新着情報に載る記事だけで209回(1/22時点)あった。行事予定など新着情報に載らないページも含めて目標の更新回数は達成できた。  |      |          |   |

【備考】「評価」及び「総合評価」の評定の基準 A:十分達成できた B:概ね達成できた C:達成できなかった

|     |                     |                    |                      |  |   |  |  |   |  |   |  |   |   |  |  |
|-----|---------------------|--------------------|----------------------|--|---|--|--|---|--|---|--|---|---|--|--|
| 2   | (1)                 | 望ましい職業観・早期の進路意識の育成 | 評価指標                 | 1  | 「小論文・講演会・SSHの諸活動などを脇高手帳に記録し、進路意識を高めるよう努力した」生徒の肯定的評価70%以上<br>「授業やホームルーム活動を通して、生徒の進路意識の向上に努めた」教員の肯定的評価90%以上 | 「小論文・講演会・SSHの諸活動などを脇高手帳に記録し、進路意識を高めるよう努力した」生徒の肯定的評価57.9%<br>「授業やホームルーム活動を通して、生徒の進路意識の向上に努めた」教員の肯定的評価97.7%                        | B  | B | 高等教育を受けてぜひ地元に戻ってほしい。地元企業と連携しながら持続可能な体制を築いてほしい。<br><br>地域連携の一つとして、SSHの内容などを小学生や中学生に出前授業という形で教える機会や、近隣地域への成果還元普及として身近にサイエンスを感じる機会を設定してほしい。 | ○多様な進路希望を持つ生徒に対して、対応できるような講師の選定に努めるとともに、周知方法や振り返りの方法を工夫し、各事業の効果を高める工夫をする必要がある。  |  |   |   |  |  |
|     |                     |                    |                      | 2  | 「SSH活動は大学進学後の志望分野探しに役立った」生徒の肯定的評価70%以上  | 生徒に対するアンケート調査では64.4%と、やや目標を下回った。   |  |   |  |   |  |   |   |  |  |
|     |                     |                    | 活動計画                 | 1  | 小論文・探究活動・講演会・SW-ingプランの活動に積極的かつ意欲的に取り組ませるとともに、進路を考える機会となるよう指導する。授業やホームルーム活動の中で、生徒の進路意識を向上させるよう働きかける。      | 脇高ポイントを活用するよう促すと共に、活動実績が総合型や推薦入試等で活かせるように、脇高手帳に書き留めさせたり、資格取得が有効であることを説明し、資格取得を促したりした。志望理由や面接が必要な入試が増えてきたこともあり、志望理由書を書かせる講演を実施した。 |  |   |  |   |  |   |   |  |  |
|     |                     |                    |                      | 2  | SSH活動への参加を将来の志望分野探しに役立たせる。  | 年2回のSW-ingアカデミー（講演会）と年5回のサイエンス・カフェ、3企画のワークショップを実施した。   |  |   |  |   |  |   |   |  |  |
|     |                     | (2)                | 個々の希望や適性に応じた多様な進路指導  | 評価指標   | 1   | 「先生は面談等を通じて、進路についてよく指導してくれる」生徒の肯定的評価85%以上<br>「教員は個人面談などを通して、個々の生徒に応じた丁寧な進路指導をしている」保護者の肯定的評価85%以上                                 |  |   |  |   | 「先生は面談等を通じて、進路についてよく指導してくれる」生徒の肯定的評価91.9%<br>「教員は個人面談などを通して、個々の生徒に応じた丁寧な進路指導をしている」保護者の肯定的評価89.8%   | A | A | 講演や面接時には脇高手帳に大切なことを書き込むなど、有効に利用している生徒が増えている。「道標」の活用とSSH活動への取組が志望分野探しに役立っている。<br><br>進学実績については学校全体で協力的に取り組めており成果が出ている。<br><br>SSHの目標の一つに、高い科学技術を持った人材の育成があるが、検証可能な到達目標の設定をワンランク上げ、企画力の取り進むことができた。朝のあいさつ運動は生徒主体にして、交通指導と併せて実施できた。<br><br>探究活動では地方自治体との連携を深めて地域課題に取り組むことで、社会貢献に対する意識の高まりがうかがえる。 | ○積極的に活動する生徒と何も情報を得ようとする生徒との乖離がある。面談をしても自分の考えに固執して現実が見られない、客観化できない生徒も増えている。保護者も子どもと十分なコミュニケーションがとれず、なかなか進路決定できない生徒もいる。  |
|     |                     |                    |                      |  | 2   | 「『道標』をはじめとする各種の進路情報は充実している」生徒・保護者の肯定的評価80%以上   |  |   |  |   | 「『道標』をはじめとする各種の進路情報は充実している」生徒78.9%・保護者の肯定的評価88.0%  |   |   |  |  |
|     | 活動計画                |                    |                      | 1  | 定期的な個別面談や三者面談を実施するなど、きめ細やかな進路指導を行う。   | 面談は随時行われた。担任だけではなく、学年も超えて相談している姿がある。   |  |   |  |   |  |   |   |  |  |
|     |                     |                    |                      | 2  | 高大接続改革の情報を含め、必要な進路情報を生徒・保護者に分かりやすく提供するとともに、『道標』や進路保護者会の内容を充実させる。  | 高大接続、大学、就職など進路情報を随時提供するとともに、できるだけ外部と接触するよう呼び掛けた。   |  |   |  |   |  |   |   |  |  |
|     | (3)                 |                    | 生徒保護者が希望する進路目標の達成    | 評価指標   | 1   | 生徒・保護者から希望の高い国公立大学への合格者数が、在籍生徒数の50%以上  | 生徒・保護者から希望の高い国公立大学への合格者数が102名となり、在籍生徒数の64.1%以上で目標を達成した。（3月24日現在） | A | A  | S S Hの目標の一つに、高い科学技術を持った人材の育成があるが、検証可能な到達目標の設定をワンランク上げ、企画力の推進を図っていたきたい。<br><br>社会貢献人材の育成について、生徒は地域ボランティアによく参加できている。運営に携わる、開発した商品を販売するなど、より深い関わりができればさらに良くなる。アントレプレナーシップ教育を推進したい。 | ○学力を上げることで志望先に到達できるような指導が基本だが、多様化する入試形態の対応もできるように準備をしていかなければならない。土台となる基礎学力の定着を図り、大学全入時代において安易な進路選択ではなく、確固たる信念を持った進路実現をさせていく必要がある。<br>○部活動を通して得られる充実感や成果に価値を見出し、今後さらに生徒・保護者に向けて両立の重要性や学校全体で発信していくことが必要である。また、両立方法についても具体的な方策を生徒や保護者に提示し、タイムマネジメント力を身につけていく指導にもつなげていきたい。 |   |   |  |  |
|     |                     |                    |                      |  | 2   | 「部活動顧問は、生徒の学習状況を考慮してバランスのとれた活動時間を設定している」生徒・保護者の肯定的評価80%以上  | 定期考査前に休みを設定するなど見通しを持った活動計画を立て、生徒・保護者ともに肯定的評価が80%を上回った。           |   |  |   |  |   |   |  |  |
|     |                     | 活動計画               |                      | 1  | 日常の取組を学習成績に反映させ、丁寧な進路指導を行うことで個々の進路実現に結びつける。   | 今後さらに生徒、保護者に向けて両立の重要性や価値を学校全体で発信していくことが必要である。また、両立方法についても具体的な方策を生徒や保護者に提示していかなければならない。   |  |   |  |   |  |   |   |  |  |
|     |                     |                    |                      | 2  | 学習と課外活動とのバランスを取りながら、生徒の自己実現に向けた指導を行う。   | 顧問はよく配慮しているが、今後さらに生徒・保護者に向けて、重要性や価値を学校全体で発信していく必要がある。  |  |   |  |   |  |   |   |  |  |
|     |                     | (4)                | 将来、社会において活躍しうる脇高生の育成 | 評価指標   | 1   | 「学校祭や球技大会などの学校行事には、積極的・主体的に取り組んでいる」生徒の肯定的評価85%以上   | 肯定的評価は93.4%で目標値を上回った。  |   |  |   |  | A | A | GTECを基本にほとんどの生徒が外部試験を受検しており、リスニングテストやスピーキングテストの実施と合わせて、英語4技能（聞く、話す、読む、書く）をバランス良く育成することができた。  | ○生徒会や学校祭実行委員を中心に部活動部員とも協力しながら活動することができたが、生徒の意見をもっと取り入れて欲しいとの要望もある。次年度はさらにブラッシュアップさせたい。<br>○身だしなみやあいさつに関しては、生徒の意識は向上している。しかし、登下校時の交通マナーや公共の場での在り方について、各所から意見が寄せられており課題となっている。 |
|     |                     |                    |                      |  | 2   | 「服装・言葉遣い・時間厳守を心がけた生活をしている」生徒の肯定的評価90%以上  | 肯定的評価は92.3%で目標値を上回った。  |   |  |   |  |   |   |  |  |
|     | 活動計画                |                    |                      | 1  | 学校祭や球技大会などの学校行事を生徒主体で積極的に運営し、協働意識を高め、社会性を育てる。   | 生徒会執行部を中心に、また各行事で実行委員を募り生徒全体で積極的に運営に取り組んだ。   |  |   |  |   |  |   |   |  |  |
| 2   |                     |                    |                      | 身だしなみについて各クラス・各学年・学校全体で継続的な指導を行う。また、朝のあいさつ運動を毎月実施する。 | 継続的な指導を行った。朝のあいさつ運動も生徒会と協力し、毎月行うことができた。   |  |  |   |  |   |  |   |   |  |  |
| (5) | 将来、社会に貢献しようとする人材の育成 |                    | 評価指標                 | 1  | 「ISO清掃活動など、各種ボランティア活動に積極的に参加している」生徒の肯定的評価65%以上  | 肯定的評価は63.8%で目標値に少し届かなかった。  | C  | C |  | ○高校生として心身の成長や進路実現に向けて、ボランティア活動等社会貢献の意識が高まっている。特にJRC部や生徒会が中心となって募金活動に取り組むなど、生徒はもちろん保護者の方々にもご協力いただく活動も実施できた。今後生徒全員が参加への意識を持てるような広報や啓発活動を行っていきたい。                                  |  |   |   |  |  |
|     |                     |                    |                      | 2  | 「社会の課題解決に関する探究活動に積極的に取り組み、社会への関心が高まった」生徒の肯定的評価75%以上   | 生徒のアンケート調査では、全生徒の74.7%が肯定的な回答であり、概ね目標を達成できたが、わずかに下回っている。   |  |   |  |   |  |   |   |  |  |
|     |                     | 活動計画               | 1                    | ボランティア活動への積極的な参加を呼びかけ、社会貢献への意識を高める。                  | 各クラスでの掲示や生徒会からの呼びかけ等で啓発に努めた。JRC部も昨年度に引き続き、積極的に全校生徒が参加できる取組を考え実施した。  |  |  |   |  |   |  |   |   |  |  |
|     |                     |                    | 2                    | 探究活動や成果の報告会などを通して生徒間の経験や知見を共有させ、社会への関心を高める。          | 探究活動における1・2年生の成果発表の機会が、2月20日となっているため、それを通して社会への関心が高まる予定である。   |  |  |   |  |   |  |   |   |  |  |

【備考】「評価」及び「総合評価」の評定の基準 A:十分達成できた B:概ね達成できた C:達成できなかった

|     |                   |      |   |  |   |   |  |   |
|-----|-------------------|------|---|--|---|---|--|---|
| (6) | グローバル化に対応できる人材の育成 | 評価指標 | 1 | 「GTECや英検の受検、ALTとの授業に主体的に取り組んだ」生徒の肯定的評価65%以上  | 生徒の肯定的評価は76.7%(-2.5)と目標値を上回り、英語外部検定試験への積極的な姿勢が見られた。   | A |  | <p>○コミュニケーション力の向上を意識した取組が進んだ。生徒が積極的に英語で表現する機会を増やすことによって、生徒が自らの課題に気づき、向上心やモチベーションを高めることができた。</p> <p>○パフォーマンステストは実施・評価ともにかかなりの時間と労力が必要である。ICTをより積極的に活用し、できる限り効率化を図っていくことが課題である。</p> <p>○学校外の活動にも積極的に参加し、外国人や海外の文化に直接触れる機会を増やしたり、調べ学習をする中で世界の出来事に目を向け、国際的な視野を持つ人材育成をしたい。</p> |
|     |                   |      | 2 | 「国際社会の様々な問題に興味・関心を持ち、書籍・インターネット等を利用して調べている」生徒の肯定的評価が55%以上                                    | 生徒の肯定的評価は63.1%(+2.5)で目標値を上回った。  |   |  |   |
|     |                   | 活動計画 | 1 | 生徒の英語学習への意欲を高め、GTECや英検の受検をすすめる。国際理解教育の充実をはかり、コミュニケーション能力向上のためにリスニング、スピーキング、パフォーマンステストを取り入れる。 | GTECは1・2年生の全員、英検については2級153名、準2級は57名が受検した。プレゼンテーションやインタビューテスト、ライティングテストなど、様々な形態のパフォーマンステストを充実させることにより、コミュニケーション力を伸ばすための取組ができた。またALTを活用することによって、活動の内容を深め効率を高めることができた。 |   |  |   |
|     |                   |      | 2 | 書籍・インターネット等を活用し、異文化に関する知識と正しい認識を持たせるとともに、グローバル化に柔軟に対応できる能力を育成する。                             | 教科書の単元に関連する内容や、プレゼンテーション学習において、インターネット等を活用して必要な情報を取り入れ、他者に伝えるよう努力できた。   |   |  |   |

|   |  |      |  |  |   |  |  |   |   |  |  |   |  |   |   |
|---|--|------|--|--|---|--|--|---|---|--|--|---|--|---|---|
| 3   | 自己有用感や自己肯定感を育み、仲間と協働できる豊かな心を持ち、公共心と社会性を備えた、たくましい生徒を育成する。 | (1)  | 環境美化・防災に対する意識の向上   | 評価指標   | 1   | 「清掃活動に積極的に取り組んでいる」生徒の肯定的評価85%以上  | 生徒の肯定的評価は93.4% (+0.6) と目標数値を上回ることができた。   | A | A | スマートフォンを家庭学習にも上手に利用してほしい。AIによる問題作成、解答の解説、学習動画の効果的な活用などポジティブに利用してほしい。 | ○環境美化については、学校内外でゴミの分別や環境整備に今後とも取り組んでいきたい。また、学期に1回の学校近くの大谷川周辺の清掃活動も継続していきたい。<br>○防災については、引き続き避難訓練やJアラートでの訓練を通して生徒に意識付けをしていき自ら行動できるようになってもらいたい。また、高校生防災士の受講生を確保して生徒たちが防災に対しての知識を得ていざという時にリーダーとなって行動できるようになってもらいたい。 |   |  |   |   |
|   |  |      |  | 2  | 「防災訓練に、関心を持って積極的に参加している」生徒の肯定的評価80%以上   | 生徒の肯定的評価は86.4% (+1.8) と目標数値を上回ることができた。   |  |   |   |  |  |   |  |   |   |
|   |  | 活動計画 | 1  | 快適な環境で学習できるよう、清掃活動やゴミの分別に積極的に取り組ませる。   | ゴミの分別は十分できており、教室内の環境整備にも努めている。また、各学年で学校周辺の清掃活動を行っている。   |  |  |   |   |  |  |   |  |   |   |
|   |  | 2    | 高校生防災士を活用して、参加体験型訓練など体験を重視した活動を取り入れ、防災に対する関心を高め、家庭でも学校でも積極的に行動できるよう指導する。 | 避難訓練では避難経路の確認や防災に対する意識の向上に努めた。3月の防災訓練は参加体験型として、煙体験避難訓練や防災クラブ員がリーダーとなって消火訓練等を行う予定である。 |   |  |  |   |   |  |  |   |  |   |   |
|   |  | (2)  | 集団や社会の一員として協力  | 評価指標   | 1   | 「ホームルーム活動や部活動を通して、自分自身が成長できていると感じる」生徒の肯定的評価80%以上   | 肯定的評価は89.8%で目標値を上回った。  | A | A |  |  | 関係機関と連携し、また実施形態を工夫しながら避難訓練を実施し、防災意識の向上に努めており、成果がでてきている。<br><br>美馬警察署と連携し、街頭でのハイスクールDJボリス活動や自転車ヘルメット着用推進キャンペーンを実施するなど交通安全や交通マナーについて周知を徹底したが、自転車の通行マナーや公共の場におけるマナーに関して苦情が寄せられており課題がある。またヘルメットの着用率の向上も求められる。<br>○携帯電話やスマートフォンをルールやマナーを意識して使用しているという生徒の割合は高い。しかし、依然としてSNSでのトラブルなどが発生しており、使用に関しては注意喚起を行っていく必要性がある。また、利用時間に関しても指導を行ってほしい。 |  |   |   |
|   |  |      |  | 2  | 「授業や小論文・講演会などを通じ、社会的問題を主体的に考える意識が高まった」生徒の肯定的評価80%以上   | 生徒の肯定的評価は83.7%(+0.3)となり、目標を達成できた。  |  |   |   |  |  |   |  |   |   |
|   |  | 活動計画 | 1  | ホームルーム活動や部活動を通して、集団の中での役割や立場を理解し、仲間と協力して目標に向かって努力できる生徒を育成する。                         | 協働的な雰囲気の中でそれぞれが目標を持って活動に取り組めており、生徒の成長に繋がる機会となっている。  |  |  |   |   |  |  |   |  |   |   |
|   |  | 2    | 主権者教育年間計画表に従い、主権者意識を高めるための授業、ホームルーム活動、総合的な探究の時間、学校行事を実施する。               | 教科学習や探究活動において協働性を育んだ他、「民主クエスト」や3年生の年金講座を通して、社会の一員としての自覚や主権者意識を高める取組を行った。             |   |  |  |   |   |  |  |   |  |   |   |
|   |  | (3)  | 基本的な生活習慣の育成、安全教育の推進  | 評価指標   | 1   | 「交通安全・交通マナーについて、日ごろから十分意識し、守っている」生徒の肯定的評価90%以上<br>交通事故等を昨年度より減少させる。  | 肯定的評価は94.8%で目標は上回ったが、交通事故は10件を超えて起きている。  | B | B |  |  |   | 携帯電話やスマートフォンに関する意識は高い。しかし利用時間については長時間にわたっており、生徒の自覚を促すとともに保護者の理解と協力を求めていく必要がある。 |   |   |
|   |  |      |  | 2  | 「携帯電話やスマートフォンは利用時間を意識している」生徒および保護者の肯定的評価80%以上<br>「携帯電話やスマートフォンはルール・マナーを意識して使用している」生徒および保護者の肯定的評価80%以上 | 利用時間に関しては目標を下回った。ルール・マナーの意識については肯定的評価の目標は上回ったが、指導を要する場面もある。  |  |   |   |  |  |   |  |   |   |
|   |  |      |  | 活動計画   | 1   | バイクの安全運転実技講習会を開き、車体検査を行う。また、登校指導を毎月行うなど、交通安全教育を徹底する。   | 実施することができた。  |   |   |  |  |   |  |   |   |
|   |  |      |  | 2  | 個人面談や家庭及び関係機関との連携を行い、情報モラルを身につけさせるとともに、携帯電話やスマートフォンの利用時間やルール・マナーを意識して使用させる。                           | スマートフォン安全教室の実施や、集会時での声かけ等を積極的に行うことができた。  |  |   |   |  |  |   |  |   |   |
|   |  | (4)  | 保健指導の充実  | 評価指標   | 1   | 「子どもは学校から発信された健康情報などを参考にして、自分の健康や生活に気をつけた生活をしている」保護者の肯定的評価70%以上<br>「掲示物などを通じて、時候や生徒の生活状況に応じた効果的な指導ができています」教職員の肯定的評価90%以上   | 保護者の肯定的評価73.5%、教職員の肯定的評価95.5%と目標値を上回ることができた。   | B | B |  |  |   |  | 悩みや不安を抱えた生徒や保護者からの相談に誠実に対応し、スクールカウンセラーによるカウンセリングを定期的実施し、必要に応じて関係機関と連携できており、生徒・保護者の満足度も高い。 |   |
|   |  |      |  | 2  | 「緊急時に救急措置(AEDを含む)をすることができる」教職員100%  | 教職員の肯定的評価は100%であった。  |  |   |   |  |  |   |  |   |   |
|   |  |      |  | 活動計画   | 1   | 時節や生徒の生活状況に応じて保健だよりを定期的・臨時的に発行するなど、効果的な保健指導を行う。  | 保健だよりは発行が少なかった。  |   |   |  |  |   |  |   |   |
|   |  |      |  | 2  | 教職員に加え生徒への救急法講習会を実施するなど、校内救急体制の充実に努める。普通救命講習会(年1回実施)  | 生徒の普通救命講習会には21名の生徒が参加した。   |  |   |   |  |  |   |  |   |   |
|   |  | (5)  | 教育相談及び特別支援教育の充実  | 評価指標   | 1   | 「悩みや不安を親身に聞いてくれる先生や友だちがいる」生徒の肯定的評価90%以上<br>「先生は保護者や子どもの相談に誠実に対応してくれている」保護者肯定的評価85%以上<br>「自己理解調査や職員研修を活かし、学級や部活動などで生徒の居場所づくりに努めることができた」「悩みや不安などの困り感を抱えた生徒に対して、組織として迅速かつ臨機応変な対応ができるように努めた」教職員の肯定的評価90%以上 | 生徒の肯定的評価は94.3%、保護者の肯定的評価90.4%、「自己理解調査や職員研修を活かし、学級や部活動などで生徒の居場所づくりに努めることができた」の教員の肯定的評価は97.7%、「悩みや不安などの困り感を抱えた生徒に対して、組織として迅速かつ臨機応変な対応ができるように努めた」の教員の肯定的評価 95.5%でほぼ目標を達成することができた。 | A | A |  |  |   |  |   | 生徒の人権学習ホームルーム活動に対する評価が高く、日常生活において人権を尊重しようとする姿勢が見受けられる。「脳高人権の日」の運営についても身近な人権問題をテーマに取り上げ、主体的・対話的な学びの実現につながった。 |
|   |  |      |  | 2  | 「生徒が安心して過ごせる教室や部活動の環境整備、授業づくりの工夫ができた」教職員の肯定的評価90%以上   | 教員の肯定的評価は100%で目標を達成することができた。   |  |   |   |  |  |   |  |   |   |
|   |  |      |  | 活動計画   | 1   | 悩みや不安など、様々な困り感を抱えていながらも言い出せない生徒がいることを常に意識し、生徒が相談しやすい環境づくりと誠実な対応に努める。   | 特別支援教育についての職員研修を実施した。配慮を要する生徒が増えているなか、職員間の連携を図り、生徒への適切な対応を学ぶ機会となった。  |   |   |  |  |   |  |   |   |
|   |  |      |  | 2  | 担任をはじめ教科担任や部活動顧問、関係機関とも連携し、生徒が安心して学校生活を送れるよう工夫し、組織として、迅速かつ臨機応変な対応に努める。                                | 不登校や悩みのある生徒について、保護者と連携しスクールカウンセラーの利用や医療機関の受診を勧めるなど、関係機関とも連携し迅速な対応ができた。   |  |   |   |  |  |   |  |   |   |
| <p align="center">【備考】「評価」及び「総合評価」の評定の基準 A:十分達成できた B:概ね達成できた C:達成できなかった</p> |  |      |  |  |   |  |  |   |   |  |  |   |  |   |   |

|   |      |           |                    |      |  |   |   |   |   |  |   |
|---|------|-----------|--------------------|------|--|---|---|---|---|--|---|
| 4 | (6)  | 人権教育の推進   | 評価指標               | 1    | 「人権問題について学んだことを、日常生活に活かそうとしている」生徒の肯定的評価85%以上<br>「子どもが学校で人権問題について学んだことを、家庭で話し合う機会がある」保護者の肯定的評価45%以上   | 生徒の肯定的評価は91.2%で、目標を達成することができた。保護者の肯定的評価については51.3%で目標を達成することができた。  | A | 修学旅行は計画通り実施することができた。文化祭は保護者への公開を実施することができ、生徒の活躍する場を広めることができた。ミライ文化祭の開催も決定しており芸術や文化に触れる機会を提供できた。 | ○生徒が人権問題についての学びを、日々の生活に反映させられるよう、身近な内容を取り上げたり、より一層家庭との連携を図るなど工夫したい。<br><br>○「人権の日だから語る会」への参加者数を増やすことができた。さらなる広報活動に努め、気軽に参加できる会となるよう努める。家庭への広報活動についても、活動の様子をホームページに公開する、また人権資料は家庭に持ち帰り、家族で話し合うきっかけとなるよう工夫する。<br><br>○人権学習ホームルーム活動については、引き続き多くの教員が指導に関われるようにする。 |  |   |
|   |      |           |                    | 2    | 「人権学習ホームルーム活動は充実している」生徒の肯定的評価85%以上<br>「すべての教育活動の中で、人権に配慮した指導ができている」教職員の肯定的評価95%以上  | 生徒の肯定的評価は92.1%で目標を達成することができた。教職員の肯定的評価は95.5%で高い評価となった。  |   |   |   |  |   |
|   |      |           | 活動計画               | 1    | 人権問題をより身近なものとして捉え、実践的態度につなげるために、人権委員が主体となり「協高人権の日」のテーマ設定や資料づくりを行う。また、その日のテーマを家庭でも共有し、広がりある人権教育に結びつける。  | 「協高人権の日」のテーマ設定や資料づくりを1・2年生の人権委員が1～2クラスずつで担当した。高校生の視点を取り入れたテーマで、主体的に資料作成に取り組む姿勢が見られた。「人権の日だから語る会」への人権委員・人権同好会「虹」の生徒以外の参加者が、昨年より1.5～2倍に増えた。 |   |   |   |  |   |
|   |      |           |                    | 2    | 生徒の実態に合わせてホームルーム活動で扱うテーマを再構成するとともに、各学年で指導案や資料を十分に検討し、生徒の主体的な活動を積極的に取り入れる。また、多くの教員が指導に関われるように工夫する。これらの活動を柱に、すべての教育活動の中で人権に配慮した指導の実現を図る。   | 人権ホームルーム活動の指導案や資料の準備に関して、各学年の担当者を中心に十分に検討して進めることができた。全15クラスで副担任がホームルーム活動を行う機会を持つなど、多くの教員が指導に関わることができた。                                    |   |   |   |  |   |
|   |      | (7)       | 感性豊かで、調和のとれた人間性の育成 | 評価指標 | 1  | 「修学旅行・文化祭などの学校行事を通して、芸術や文化活動に積極的に取り組んだ」生徒の肯定的評価80%以上  |   |   |   | 肯定的評価は93.2%で目標値を上回った。  | B |
|   |      |           |                    |      | 2  | 「普段から読書に親しんだり、NewsPicksや新聞等の社会的なニュース記事を読んだりするように心がけている」生徒の肯定的評価65%以上<br>図書館利用者数の増加  |   |   |   | 「普段から読書に親しんだり、NewsPicksや新聞等の社会的なニュース記事を読んだりするように心がけている」生徒の肯定的評価は55.2%で目標を下回った。 |   |
|   | 活動計画 |           |                    | 1    | 修学旅行・文化祭などの学校行事の中で芸術や文化に触れる機会を設け、芸術・文化について理解を深めるとともに、豊かな情操を養う。   | 修学旅行は計画通り実施することができ、1学年は万博での校外学習を実施した。生徒は文化祭や文化部活動等、芸術や文化に触れる機会を積極的に持とうとしていた。  |   |   |   |  |   |
|   |      |           |                    | 2    | 読書推進週間を設け、図書館だよりの充実や読書の推進を図る。  | 図書館だよりの充実や館内の展示の工夫などを通して、読書推進に向けての広報活動を継続して行うことができた。  |   |   |   |  |   |
|   | (1)  | 業務改善と意識改革 | 評価指標               | 1    | 「業務の効率化や会議の縮減等の業務改善に取り組んでいる」教職員の肯定的評価80%以上   | 教員の肯定的評価は76.7%で、目標達成まであと一歩であるものの、昨年度より13%上昇するなど改善の兆しがある。  | B |   |   | 130周年記念事業についてさらなる周知をお願いしたい。広報活動におけるSNSの活用は、生徒が上手な場合もある。                        |   |
|   |      |           |                    | 2    | 時間外勤務時間が、年平均で月45時間以内   | 一人当たりの時間外勤務時間の月平均は、昨年度に続き目標を達成できた。令和7年度は43時間57分であった。  |   |   |   |  |   |
|   |      |           | 活動計画               | 1    | 日常業務の効率化を図るとともに、会議の精選や会議時間の短縮を推進する。  | 補習実施日の検討、模試の日程変更など引き続き業務縮減に努めた。また会議では、ペーパーレス化を実施し、プリントアウトなどの手間の削減、情報漏洩リスクの低減等を図っている。  |   |   |   |  |   |
|   |      |           |                    | 2    | 勤務時間を意識した働き方を推進するとともに、週末の部活動等についても計画的に時間短縮に努める。  | 学校の部活動に係る活動方針を策定し、適切な運営のための体制整備や休養日を定めた。一方、進路指導は放課後の個別指導に時間を費やす場面が多くあり、教員や生徒の負担に十分配慮しつつ、持続可能な活動環境を整備する必要がある。                              |   |   |   |  |   |
|   |      |           |                    | B    | 業務改善と意識改革を図るためには、教職員一人ひとりがこれまで当たり前としてきた考え方や態度、行動パターンを見直し、新たな価値観や習慣を身に付ける必要がある。   |   |   |   |   |  |   |
|   |      |           |                    |      | ○報告や回覧、個別対応で可能な会議等を削減するなど業務縮減に努める。<br>○各分掌間で連携して行事の精選や見直しを検討するとともに、課員個々が担当する業務量を勘案して業務分担を見直すなど、業務の平準化に努める。<br>○学期末考査後の日程や長期休業中の補習の在り方について検討する。<br>○生徒個別の進路指導について組織的・計画的に行うよう更に努める。<br>○部活動については、毎月の活動計画に基づき実施するとともに適切な休養日を設ける。 |   |   |   |   |  |   |